

「東京都豪雨対策検討委員会」(第3回) 議事要旨

■日時：令和5年6月26日(月) 午後15時00分から

■場所：東京都庁第二本庁舎10階 一般会議室201・202

検討委員会での主な意見

○基本方針改定の方向性、政策目標

- ・ 現状の水門統計学では、期待値の周囲で値がふらつくという観点も踏まえるべき
- ・ 過去、現在、将来の方向を入れるというのは良いと思う。将来のことは、不確実性を踏まえて幅を持たせるが必要
- ・ あらゆる主体が自分ごと化していくためにも、広報や教育など人を巻き込む考え方が必要

○各施策の主な取組について

- ・ 最近は、耐水建築等の検討も進んでおり住民が取り組める選択肢になる可能性がある
- ・ 災害リスクだけではなく、グリーンインフラのような多機能的なメリットがあるとよい。豪雨対策に付加価値があることは魅力的
- ・ 下水道整備に関して、雨水管理の考え方が地域ごとに異なる場合、各自治体のニーズを支援するというのは良い。一方で具体的な取組が分かりにくいという観点もある
- ・ 情報発信強化は、解像度を高めるイメージを持っている。ワークショップ、わかりやすいシミュレーションで、自分ごと化に近づく広報が必要

○各施策の役割分担

- ・ 水害に強いまちづくりや家づくりには、自助が主たるものであるとした上での指導や補助を示していくことが良い
- ・ リスク情報がすぐに行動に繋がる訳ではない。自身が置かれた環境や地域ごとの災害に対する脆弱さの評価を知るが必要
- ・ 豪雨対策の5つの取組には様々な主体があるが、住民も含めて誰が何をするのか分かりやすくした方が良い